

和 崎 春 日*
WAZAKI Haruka *



東南アジア在住アフリカ人の生活動態 —ベトナム・スポーツ界におけるアフリカ人の活動

The Ways of Living of Africans in South-East Asia:
Africans Active in Vietnamese Sports.

はじめに—ベトナムとアフリカの交流

アフリカはベトナム語でチャウフィーというが、チャウフィーという単語を、ハノイ旧市街の民衆街で発してみても、この2-3年前までは「なんですか、それは」と、場所の用語であることは認識しおよその位置はわかっても、「よくわからない」といった反応が多かった。それが、この2-3年の間で急速に、チャウフィーとはアフリカのことであり、地球の南のどのあたりか、という民衆による認識が大きく増すようになってきた。アフリカが、認識外からベトナム民衆の認知の中に入ってきた。アフリカからの人の流れで見れば、かつて香港、バンコック、シンガポールなどに集中していたものが、日本へ、中国へと目的地の比重が変わり、日中にかつてと比較すれば大量のアフリカ人が流入するようになってきている。それが、東南アジア各都市にも波及している。ベトナムでも、ここ2-3年、明らかに多くのアフリカ人を街で見えるようになってきた。ハノイの街角で偶然出会っただけのアフリカ人を挙げてみても、ナイジェリア、カメルーン、マリ、スーダン、タンザニア、旧ザイル（コンゴ民主共和国）、ガーナといった国々が並ぶ。ベトナム—アフリカの交流が進んでいる¹⁾。

ベトナム・スポーツの国際交流では、2006年の国会で74の条項が整備され、「100%」全

面的に国際交流を促進していくことが謳われた。スポーツ分野でいうと、アフリカでは北アフリカのアルジェリアとの交流が、盛んである。毎年、アルジェリアからベトナム空手ボビナムの選手がやってきて交流試合を続けている。ベトナムからアルジェリアに派遣もする。同じ旧フランス植民地からの独立国という共通の歴史をもつ。ベトナム・サッカー連盟とアルジェリア・サッカー連盟は、5年間の協力協定を結んだ。毎年、両国のスポーツ・リーダーやコーチ、選手を派遣し合い、共同トレーニングをおこなっている。2010年中国の広州で国際スポーツ大会・アジア大会があったとき、ベトナム・チームはゲームの前に気候が似ているアルジェリアの地でトレーニング・キャンプを張って交流試合もおこなっている。

ハノイ国家大学の留学生を見ても、アルジェリアによるフランスからの独立戦争、アンゴラ、モザンビークによるポルトガルからの独立戦争など、ヨーロッパによる植民地化から熾烈な独立闘争を経て独立を勝ち取った国々、とくにそのあと社会主義体制をとった国々との交流が深い。アフリカでは、独立に向ける闘争はどの国も熾烈でどこか旧東西の「東」陣営に近い社会的世相をかかえるのだが、上記のアルジェリア、モザンビーク、アンゴラがまさにそうであり、ベトナムの「トップ大学」と評されるハノイ国家大学にはこれらのアフリカ諸国から留

*中部大学国際関係学部中国語中国関係学科

学生がやってきている。ベトナムは、現在、オリンピック競技の射撃の分野で、ドイツとの交流が厚いが、これも昔から強豪の旧社会主義東ドイツとの交流が基礎となっている。ベトナム空手ボビナムは、大学や高校での体育スポーツ授業にも、しばしば正課として取り入れられている。ハノイ郊外に新しく設立されたFPT大学でも、その付属高校でも、ベトナム空手ボビナムは授業のなかに正規の科目として位置づけられ、大きな空手道場でボビナム運動授業が行われている（写真1）。ボビナム空手もポピュラーだが、サッカーの人気はスポーツで1番だろう。

1 ベトナム・プロサッカー・リーグ V League の構成

現在、ベトナムではプロサッカー・リーグが発展しようとしている（写真2）。行政当局も、プロサッカー・リーグを整備しようと意識的にベトナム全土の各都市にチームを醸成しようというフランチャイズ促進案を持っている。1990年に、ベトナムはスポーツ・オープン政策を打ち立てて、スポーツ分野も開放した。ヨーロッパでの各都市を基盤にしたスポーツのあり方が、日本でも育成されてきた。ベトナムでも、首都ハノイと南部大都市ホーチミン、さらには中部の伝統都市で王都だったフエ、という3つの伝統地域の基層文化の競争だけではな



写真1. ベトナム空手ボビナム
アルジェリアとの交流が深い

く、細分化されたベトナム各地の多くの都市によるフランチャイズ制を取り整備を図ってきた。

2006年に、V League という1部リーグに14チームを選定し、2015年現在でも、このベトナム各地の14チームが公認されている（図1、表1参照）。ベトナム地域文化の特色を整理すると、北部は、社会主義の政治伝統と中国文化の影響を強く受けた地域である。首都ハノイや港湾都市ハイフォンがある。金族らによる王朝文化は、中国の影響も受けており、言語をはじめ漢文化との連続性もある。中部は、都フエのグエン王朝の文化を基礎とした、北でも南でもない独自文化を持つ地域である。港湾都市ダナンや日本との交流の歴史を持つホイアンがある。南部は、フランスによる植民地化の歴史とヨーロッパ文化の影響が見られる。南北ベトナム時代にアメリカが南ベトナムとその首都サイゴン（現在はホーチミン）を支えたことから、「ベトナム戦争」（ベトナム当地ではアメリカ戦争と言う）での南への肩入れによって、アメリカ文化の影響も見られる。ホーチミンや南の地域は、仏米を中心とした欧米との関連が強い。ベトナム全土に、地方行政の単位として、58の省が置かれている。また、政治、経済、社会的に重要な役割を果たしている都市として、5つの中央直轄都市が置かれ省と同じレベルに位置づけられている。それらは、ハノイ市（北部）、



写真2. V League 試合開始セレモニー
(2015年6月28日ハノイ対カントーの試合)

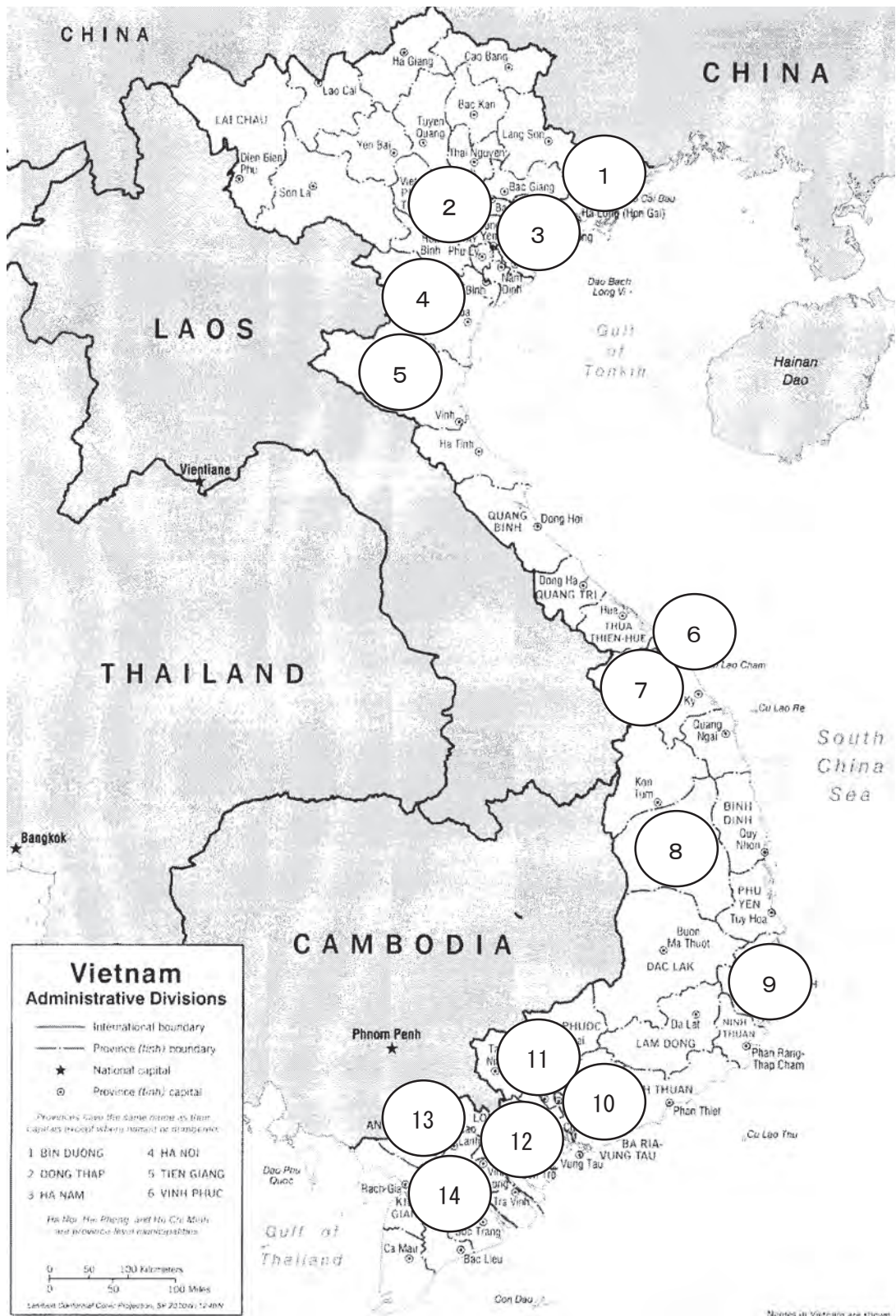


図1. V League を構成する14チームの分布（ベトナム・スポーツ省提供の地図に筆者が14チームの所在を図示）

表1. V League 14チームの内訳

番号	ベトナム表記	日本語表記	ホームタウン	クラブ名
①	Quảng Ninh	クアンニン	カムファー	タン・クアンニンFC
②	Hà Nội	ハノイ	ハノイ	ハノイT & T FC
③	Hải Phòng	ハイフォン	ハイフォン	ハイフォンFC
④	Thanh Hóa	タインホア	タインホア	タインホアFC
⑤	Nghệ An	ゲアン	ヴィン	ソンラム・ゲアンFC
⑥	Đà Nẵng	ダナン	ダナン	SHBダナンFC
⑦	Quảng Nam	クアンナム	タムキー	QNKクアンナムFC
⑧	Gia lai	ザーライ	プレイク	ホアンアイン・ザライFC
⑨	Khánh Hòa	カインホア	ニャチャン	サンナ・カインホアFC
⑩	Đồng Nai	ドンナイ	ビエンホア	ドンナイFC
⑪	Bình Dương	ビンズオン	トゥーザウモット	ベカメックス・ビンズオンFC
⑫	Long An	ロンアン	タンアン	ドンタム・ロンアンFC
⑬	Đồng Tháp	ドンタップ	カオラン	TDCSドンタップFC
⑭	Cần Thơ	カントー	カントー	XSKTKアントーFC

ホーチミン市（南部）、ハイフォン市（北部）、ダナン市（中部）、カントー市（南部）の5市である。

ベトナム研究開発科学院の外務事務局 Do Kien 副主任の協力のもと、ベトナム・スポーツ省の Hoang Quoc Vinh 国際局長にインタビュー調査をおこなった。この時のインタビューによると、現在は国内のベトナム・プロサッカー・リーグ V League で14チームが公認されている。1980年に設立された。1986年が社会主義経済から経済開放へとかわるドイモイ政策開始の年であり、およそこの頃から経済をはじめあらゆる分野の自由化を促進しようとする時代風潮が高まっていった。ビン国際局長によれば、外国人プロサッカー選手のベトナム国籍取得の壁も近年、意識的に低くする政策をとっているという。これを1部リーグとして、全国各地に根ざした下位リーグのチームが申請中または認可を待機中である。V League は、次年度以降に16チームに拡大することが決まっている。下位リーグは、ベトナム・ファースト・ディヴィジョンという。ここから1部のV League が上がってくる。2014年度のトップ1部リー

グの優勝チームは、ビンズオン省の Becamex Binh Duong である。スポーツ省の政策として、ベトナム北部、中部、南部の各地で、マイタウンのアイデンティティを醸成することを目指している。14チームの内訳分布は、フランチャイズとして地域的にバランスがとれている（図1、表1参照、ベトナム・スポーツ省提供に筆者が加筆）。

まず、北部では、首都ハノイに、Hanoi T and T のチームがある。T and T というのは、モーターはじめ車関係製造会社で鉱山業、不動産業、健康食品、貿易輸出入など多角経営をおこなっている会社である。これがスポンサーになっている。ハノイの政治力・経済力を支える貿易拠点で、北部の重要な港湾都市ハイフォンの北東部に位置するクアンニン省の Thanh Quang Ninh のチームがある。ホーチミン主席の出身省であるゲアン省の北に位置する Thanh Hoa タインホアのチームがある。港湾都市ハイフォンそのものの Hai Phong のチームがある。そして、ホーチミンの出身地ゲアン省の Song Lam Nghe Anh のチームがある。フランス植民地時代からゲアンの省都ヴィンにこのサッカーチームの源があ

り、Song Lam は、この軍事関係の委員会を引き継いだ名前である。ゲティン省の人民委員会にこのサッカーチームが継承されたあと、ゲアン省が管轄している。

中部ベトナムでは、平野部から山岳にそって少数民族が多い地域であるが、ここから海岸部へ伸びたところに位置するカインホア省の Sanna Khanh Hoa BVN のチームがある。BVN というのはベトナム海のこと、このチームが海岸の観光地ニャチャンに位置するからその名をとっている。中部地方にあって、ベトナム・コーヒーの代名詞とも言えるバンメトートの北に位置するザーライ省の Hoang Anh Gia Lai のチームもある。Hoang Anh は、黄色の鷲のことでチームの愛称である。さらに、港で有名で、今は海の観光リゾートにもなっているダナンの SHB Da Nang がある。ダナンは、行政的に省から独立した大都市で、ハノイやホーチミンと並んで5つの中央直轄市のなかの1つである。SHB は、Saigon Hanoi Bank 銀行のことで、これがチーム・ダナンのスポンサーになっている。この近隣で、ダナンの南西に位置するクアンナム省の QNK Quang Nam のチームも認可されている。QNK は、ゴルフ場などを経営する会社である。これがスポンサーとなっている。クアンナムとダナンは、もともと1つのチームを作っていたが、これが拡充発展して2チームになったという経緯をもつ。

ベトナムの南部地方では、ビンズオン省の Becamex Binh Duong がある。Becamex は、ベカメックス IDC という正式名称で、IDC は Investment and Industrial Development Corporation の略である。100%政府資本の会社で、工業団地の造成、都市交通やインフラ整備の分野など工業投資の会社である。資金力があり大型補強で評判になっており、これが奏功して2014年度の優勝チームとなった。さらに、ホーチミンから西南のロンアン省の Dong Tam Long An がある。さら

に、2014年度の得点王サムソンがかつてベトナムに来て2チーム目に所属していたドンタップ省の Dong Thap チームもある。南部ベトナムの有名な観光地で中央直轄市であるカントー市の XSKT Can Tho のチームもある。XSKT というのは Xo So Kien Thiet でベトナムの宝くじ会社のことであり、これがスポンサーになっている。ホーチミン市から北にあるドンナイ省の Dong Nai チームもあり、南部地方では5チームがある。これで計14チームであるが、北部5チーム、中部4チーム、南部5チームとバランスがとれるように、国策によって認可されている。

Dong Tam Long An は、1976年から2000年までアマチュアのロンアン・サッカー隊として存在していた。2001年からスポーツ・マネジメント会社の Dong Tam がスポンサーとなりプロ化した。ハイフォンは、元公安、警察チームである。日本の企業サッカーチーム・ヤンマーがセレッソ大阪になったように、各地に根差すチームが、それを基盤にプロ化していったのである。したがって、各地の母体となるサッカーチームの起源は、古い。クアンナムは1997年設立。ドンナイは1976年設立。カントーは1976年設立。ダナンは1976年設立。ゲアンは1979年設立。タン・クアンニンとはなんと1956年からの歴史を誇る。クアンニン・チームは、1956年4月24日に、ホンクアン地区委員会が青年を集めてホンクアン青年サッカー隊を設立したことから始まる。1956年からの長い歴史をもつ。1967年に、最初ホンクワン青年サッカー隊として設立され、1957年にクアンニン青年サッカー隊に改称された。1990年にクアンニン労働者サッカー隊となり、これが代表チームに昇進した。1991年にクアンニン労働者チームは、ハノイ青年隊とタインホア警察隊が降格したときに同時に、一時解散した。そして1994年に、タン・クアンニン・サッカー

チームとして再設立された。クアンナムのように1997年と比較的新しい設立の起源チームもあるが、1976年あたりに起源をもつ古いチームが多い。ゲアンは1979年設立、2004年にセミプロ化し、2009年にプロ・チームになった。ハノイは2006年にプロ化している。このように、ベトナムのサッカーの歴史は、古く深い。

ベトナム全土を、便宜的に8つの地方に分類することもある。V League を構成している14チームが属する省や中央直轄市(①～⑭)をこの8地方にいれていくと、北から南へ、①クアンニン省がある東北地方、ディエンビエンフーがある西北地方、②ハノイ市③ハイフォン市がある紅河デルタ地方、④タインホア省⑤ゲアン省がある中北部地方、⑥ダナン市⑦クアンナム省⑧カインホア省がある中南部地方、⑨ザーライ省がある中部高原地方、⑩ドンナイ省と⑪ビンズオン省がある東南地方、⑫ロンアン省⑬ドンタップ省⑭カントー市があるメコンデルタ地方の8つである。こうして全国を8つに地方分類する方法から見ても、西北地方にはまだだが、バランスよく全国の7つの地方に14のチームが分散するように配置されている。

現在、さらに9チームがベトナム・リーグV League への昇格目指して、登録申請中である。それらは、CLB Hanoi (ハノイ：北部首都)であり、CLB Bong Da Hue (フエは、中部王朝の都、Bong Da は、サッカー、フットボールのことである)であり、Dak Lak (ダクラック：中部)であり、Hung Vuong An Giang (アンザン：南部、Hung Vuong 英雄フンブオン王のチーム愛称を冠している)であり、Phu Yen (北部フンイエン省)であり、Con An Nhan Dan (コンアン・ニャンザン)であり、Binh Phuoc (ビン・フオック：南部)であり、Nam Dinh (北部ナムディン省)であり、TP Ho Chi Min (ホーチミン)の9チームである。ここでも、ベトナム・スポーツ省は、1部ともいえるV League への昇格

を待機するグループに、ベトナム北部・中部・南部のバランスをとっている。コンアン・ニャンザンとは、漢字では公安人民であり警察チームである。行政的なチームで首都ハノイと考えてもいい。これ以外では、やはり北部3チーム、中部2チーム、南部3チームという地域フランチャイズの均衡が保たれている。

2 2003年以降のV League の国際化 —2006年の環境整備

2-1 アフリカ人選手の活躍と日本の係わり

外国人選手がV League で活躍できていることは、ベトナム・スポーツ界の国際化を示す一つの指標になる。これにアフリカ人選手が参入してくる。V League では、外国人選手を積極的に入れるようにした。2003年から外国人選手が活躍している。2006年に国際化の流れを意識し、スポーツ省が正式に整備した。現在は、基本的に3人までの外国人選手を登録できる。事情が許せば5人まで許可されることがある。国際化推進のために各チームに2人分の採用まで援助金が整備された。当初は、ブラジル、アルゼンチンの南米サッカー強豪国からの選手が活躍していた。それでも、2003年と2004年の得点王は、ともにナムディン・チームに所属していたナイジェリア人選手、Emeka Achilefu と Amaobi Uzowulu の2選手である。2005年から2011年まで、ブラジルとアルゼンチンの選手が得点王になっている。だが、近年、アフリカ人選手の活躍が大きい。2012年からは3年連続してアフリカ関係の選手が得点王になっている。2012年は、ナイジェリアのティモシー・アニエンベが、2013年は、ナイジェリアのサムソン・カヨデとアルゼンチンのマロンクレが両者得点王になった。2014年は、サムソン・カヨデがベトナム国籍を取得し、ホアン・ブー・サムソンというベトナム名を冠して得点王に輝いた。

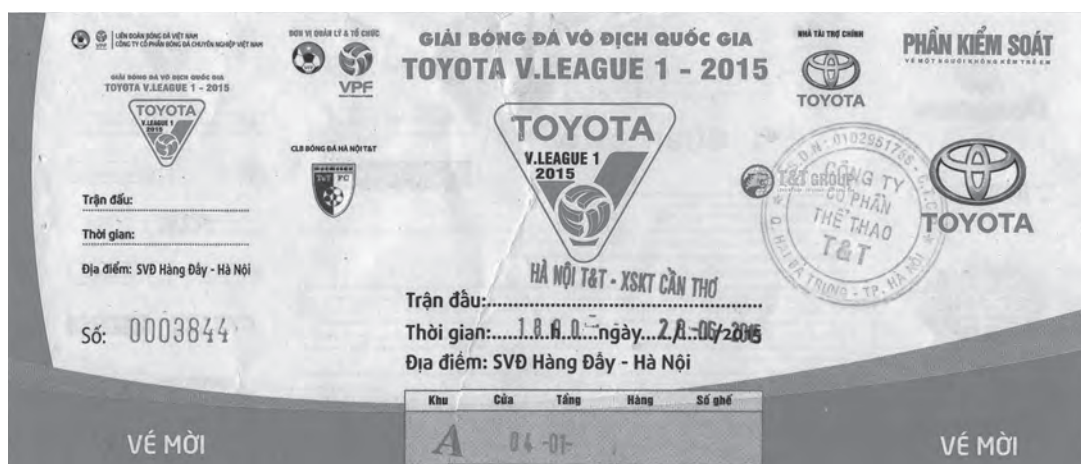


写真3. V League をトヨタがサポートしている

2015年8月16日のハノイ Hanoi T and T とビンズオン Becamex Binh Duong の試合では、日本人の岡部拓人国際審判員が主審として笛を吹いている。スタジアムには、ホーチミン主席とスポンサー・トヨタの看板が大きく掲げられている。ベトナム・サッカー協会と日本サッカー協会が協定を結んでいるからである。2012年8月7日、ベトナム・プロサッカー・リーグと日本プロサッカー・リーグは、パートナーシップ協定を締結した。FIFA レフリーとして公認された日本人審判員が、ベトナムの試合の審判を務めるようになっていく。こうしてサッカーの領域で、アフリカ人選手が多く参入するベトナム・リーグで、日本とベトナムの交流も発展している。岡部審判員は、このあとすぐ翌日に2泊3日の短期ベトナム滞在日程をおえ日本に帰国した。日本では日本語教師も務め日本の国際化に貢献している。ベトナム・プロサッカーの選手にアフリカ人がやって来て、審判に日本人がやって来る。今は、こうした、世界が有機的に、しかも機敏につながる国際交流とグローバル化の時代なのである。そして、日越アフリカの交流をさらに拡大発展させる趨勢で、ベトナム・ナショナルチームの監督に、2015年、日本の三浦泰年が就任した。

この日本からのベトナム・サッカー界への参入と関係強化は、ベトナム・サッカーリーグのスポンサーをトヨタがつとめていることも大きい。V League の試合を観戦に行くと、チケットを購入するが、チケットにトヨタの名が大きく印刷されている（写真3）。チケットに TOYOTA の名前ロゴが4つも入っている。この試合が、2015年6月28日18:00から開催される、北部チームのハノイ Hanoi T and T と南部チームのカントー XSKT CanTho の試合であることが示されている。中央には、TOYOTA V League 1とベトナム・サッカーリーグ1部のトップリーグを、トヨタが支えていることが大きく表明されている。

こうしたことから、ベトナムにおける日越アフリカ関係をふくむ国際交流の進展が読み取れるのである。

2-2 活躍するアフリカ人選手の経歴

ベトナムにやってきて得点王争いをするような活躍をするアフリカ人選手のこれまでの経歴は、どのようなのか。これを知ることは、ベトナム・サッカーとアフリカ・サッカーの交流を知る上で意味がある。そこで、2人の優れたアフリカ人サッカー選手の経歴を見てみよう。

パティヨ Patiyo Tambwe は、ここ2～3年、いつも得点王争いに顔を出すコンゴ民主共和国出身のフォワード、ストライカーである。1984年生まれで現在31歳と脂の乗ったフットボーラーである。旧国名ザイル（現在のコンゴ民主共和国）の Beni 生まれで、身長183cmで、屈強な身体をしており、ひとなつっこい人柄で人気もある。ハノイで試合があった後や各地の試合の合間、またオフ・シーズンに入った直後に首都ハノイの繁華街に出て仲間と歓談する。この時も、ベトナム人の仲間と一緒に、ハノイ市のなかでビア・ホイ（ビア・ホールから派生語、ビールを飲める酒場のこと）が集中するタヒエン地区に、フットボールスターなのに奢ることなく気軽に現れた（写真4）。

2005－2006年は、コンゴ民主共和国のゴマ州のチーム Virunga Goma でプレイしていた。その後、海外に出てトルコのクラブで活躍したあと、ここでヨーロッパへ評判が伝わり、2011年にはヨーロッパ移籍を実現した。2011－2012年の2年間、ベルギーの1部リーグであるスーパーリーグのなかの、ベルギーの首都ブリュッセルにある Brussel F.C. でプレイした。ベルギーとコンゴ民主共和国の関係は、植民地時代以来、旧宗主国と植民地の関係にある。今日でもコンゴから見れば、ベルギーは、ヨーロッパのなかでまず憧れて目指す、出稼ぎ先として一番情報が入ってくる、情報ネットワークが



写真4. クアンナム・チームで活躍するコンゴ民主共和国出身パティヨと筆者

深く張られている関係地である。

2013年に、ベトナムにやってきた。2013年は、ベトナム北部にあり首都ハノイの南に位置するタインホアの Thanh Hoa F.C. でプレイした。1部リーグ、V League のチームである。2014年には、2部リーグの Vissai Ninh Binh F.C. でプレイした。Vissai はセメント建機の会社であり、これがチームのスポンサーである。ベトナム北部ハイフォン港から南に下ったところにある小さな町 ニンビン Ninh Binh にあるクラブである。2014年の下半期は、同じ2部リーグのチームだが、ホーチミン市の近くにある南部の町アンザン An Giang のクラブに変わった。そして今年度の2015年には、ダナンの近くでベトナム中部の町クアンナムのチーム QNK Quang Nam F.C. で活躍している。22試合に出て16点を挙げている。2006年には、海外での活躍が目を引き、母国コンゴ民主共和国のナショナル・チームのメンバーにも選出されている。

もう1人、ホアン・ブー・サムソン Hoang Vu Samson は、ナイジェリア生まれで、もともとの名前は、サムソン・カヨデ・オラレイエ Samson Kayode Olaleye である。1988年生まれ、現在27歳のフォワード、身長182cmのストライカーである。ベトナムでは、出身地をナイジェリア南部にある最大都市ラゴスとしているが、少年－青年期はナイジェリア北部ハウサ語圏のカツィーナの街で育った。ナイジェリアは、多数の民族構成によってなるものの、3大民族により、北部のハウサ語圏、南西部のヨルバ語圏、南東部のイボ語圏に大別される。民族語としては母語のイボ語と育った地のハウサ語を話す。試合後、サムソンと私は、ハウサ語で歓談し、サムソンは信頼を寄せて心を開き自分の経歴を吐露した。こうして、カツィーナ育ちであることが判った（写真5）。

2007年、ベトナム北部に位置する2部リー

グのタン・クアンニンに入り、このシーズン20得点をあげて注目された。2009年、1部のV League に昇格した南部ベトナムのドンタップでプレイし、43得点をあげるなど2011年までこのチームで活躍した。ベトナムでの活躍が認められ、2011年にスペインのアトレチコ・マドリードと契約しヨーロッパ進出を果たした。アトレチコ・マドリードのEU圏外選手数との関係で、ポルトガルのスポルティング・ブラガに期限付き移籍した。だが、アトレチコ・マドリードとの契約前に、ベトナムのハノイ・チーム Hanoi T and T と契約していたことが判明し、サムソン側と Hanoi T and T 側の話し合いが行われた結果、ハノイと合法的な正式契約の存在があることが確認された。これを受けて、ハノイ側は、200万ドルの違約金の支払いを条件に移籍を認めるとしたが、サムソン側は移籍せず Hanoi T and T に入り活躍した。次の2012年には、14得点をあげてVリーグ2位に貢献した。Vカップも準優勝した。2013年シーズンでは、チームの同僚ゴンザロ・ダミアン・マロンクレと共に最高ゴール数14得点をあげて得点王に輝き、ハノイ・チームのVリーグ優勝にも貢献した。2014年シーズンも23得点をあげて2年連続の得点王に輝いた。このシーズン終了後、2013年ベトナム国籍を取得しホアン・ブーというベトナム名を得て、ホアン・ブー・サムソン Hoang Vu Samson という名前で活躍し

ている。選手の個人史でも、アフリカベトナム関係が深まっているのである。

こうしたアフリカ人サッカー選手のベトナム国籍の取得は、ハノイ・チーム Hanoi T and T のホアン・ブー・サムソンだけではなく、他チームにもベトナム国籍を得たアフリカ人選手がいる。ハノイ・チームとカントー・チームの試合が2015年6月28日にあったが、この試合のフィールドワークをおこなった。このカントー・チーム CLB Bong Da Can Tho のなかにもベトナムに帰化したアフリカ人選手がいる。それは、背番号68番のグエン・ロジャース Nguyen Rogers である(写真6)。ロジャースは、ルヒヤ、ルオが多く棲むケニアの西部地域出身でルヒヤ人である。2012年にベトナム国籍を得た。だが、アフリカ人社会の世界感覚からすれば、国籍は、限定選択的に1つ選ぶだけではなく、各国の法制で1つだけ選ばせるとしても、戦略的に重ねて持っていて一向に差支えない、できれば複数もっていたい、という感覚が強い。ベトナム・サッカーの国際化とアフリカの参入ということで言えば、あと2人のアフリカ人選手は、背番号90番で攻撃的な右ミッドフィルダーのウセニと、背番号9番のワシウである。ともにナイジェリアの大都市イバダン出身で、ナイジェリアの3大民族でいえばヨルバ人である。ウセニは、名前の通りモスレムだが、このアフリカや西アジア、東南アジアに多いモスレムを受け入



写真5. 2014年シーズン得点王サムソンと筆者



写真6. ケニア出身のロジャースとの試合後の歓談
ナイジェリア出身のウセニ（右）ワシウ（左）と共に

れる基盤も整ってきている。ハノイ市街には、イスラーム寺院モスクが立ち、この季節、ラマザン断食も戒律通りに実行している動きが観察された（写真7）。

国際化に絡む帰化と国際結婚の話に戻る。国籍とは違っても、たとえば私の在日アフリカ人動態調査からすると、アフリカに結婚した家庭があっても、日本女性とまず「ためらいなく」結婚することが多い。また、アフリカ以外の国籍を獲得したとしても、アフリカ国籍を放棄しないでいることのほうが多い。そのことは、アフリカに限らず、たとえヨーロッパのような「先進国」であっても、事情は変わらない。個人の生き方としては、戦略として複数の国籍をもっているほうが「得」にきまっているからである。日本人とイタリア人の間に生まれた人が、選択を迫られる時がきて日本国籍を選んだのだが、したがってイタリア国籍を放棄したと日本政府に報告されるのだが、「勝手に」イタリア国籍を更新して持ち続けるのである。こうした国際感覚があるので、結婚についても、アフリカ母国に家庭があっても、ベトナムでの結婚やベトナム国籍取得は、増加されこそすれ、一方と他方の板挟みになるというようなアンビバレントな性質をまったくもたない。ベトナム国籍の取得へとまっすぐに進む。カントー・チームのグエン・ロジャースは、ベトナム国籍を取得したが、ケニア国籍のままのルヒヤ人の配偶者がウ

ガンダの首都カンパラにいる。このベトナム国籍取得も彼のアフリカでの家庭生活に影響を与えるものではまったくない。こうしたアフリカ人の生活戦略が国際の招合せの接面で発動されているのである。アフリカ民衆の生活戦略といってよい。

3 現在の V League 14 チームにおけるアフリカ人選手

旧年度もふくめて各チームの外国人選手の内訳をみると、アフリカ人選手の活躍への期待が大きく、アフリカ人選手がよりベトナム・スポーツ社会に溶け込んできていることがわかる。旧年度の外国人選手の構成が判っているチームが4チームある（表2）。〈2014〉の表記で示してある。クアンニン、ハイフォン、ゲアン、クアンナムの4チームである。クアンニンはナイジェリア人選手2人、ハイフォンはジャマイカ人選手2人、ゲアンはガーナ人選手とオランダ人選手、クアンナムはウガンダ人選手1人とブラジル人選手2人、という内訳であり、アフリカ人選手がやはり入り込んでいる。試合会場のスタジアムに行つて試合を観戦すると、アフリカ人選手のプレイへの歓声が大きい。ベトナム民衆社会にも「アフリカ」が強く根づいてきていることが判る。

今年度（2015年9月現在）の V League 14 チームの外国人選手の内訳を見てみよう。この時点での、成績上位から列記してある。表では、ベトナム・サッカーリーグ1部リーグ14チーム、選手登録数、そのなかのベトナム人選手数、外国人選手の国籍の順に表示している。1位のビンズオンからこの時の14位のドンナイまで、選手登録は、25～31である。最も少ない選手数25人のロンアン・チームで、ベトナム人選手23人、外国人選手2人である。最も多い選手数31人のハイフォン・チームは、ベトナム人選手29人、外国人選手2人である。外国人



写真7. ベトナムでも定着するイスラーム文化
ラマザン（断食）を謳うモスク

表2. ベトナム・プロサッカーリーグの構成

1	Becamex Binh Duong	30	27	Vietnam	Nigeria Senegal Uganda
2	Than Quang Ninh	27	25	Vietnam	Uganda (Brasil) 〈2014 Nigeria Nigeira〉
3	Thanh Hoa	26	24	Vietnam	(Brasil Holland)
4	Hai Phong	31	29	Vietnam	Zimbabwe (Brasil) 〈(2014 Jamaica Jamaica)〉
5	Dong Tam Long An	25	23	Vietnam	Mali (Portugal)
6	Song Lam Nghe An	29	27	Vietnam	Cameroun (Brasil Romania) 〈2014 Ghana (Holland)〉
7	Sanna Khanh Hoa VBN	30	28	Vietnam	Nigeria (Brasil)
8	Hanoi T & T	26	22	Vietnam	Nigeria (Trinidad Tobago, Trinidad Tobago, Argentina)
9	Dong Thap	25	23	Vietnam	Nigeria Nigeria
10	Hoang Ann Gia Lai	28	25	Vietnam	Nigeria Nigeria Nigeria
11	QNK Quang Nam	26	24	Vietnam	Congo (Kinshasa) Uganda 〈2014 Uganda (Brasil Brasil)〉
13	XSKT Can Tho	26	24	Vietnam	(Brasil Croatia)
14	Dong Nai	30	28	Vietnam	Cameroun Nigeria

(和崎春日作成 2015年5月22日現在)

選手の1チーム内の許容数は、3名までである（特別の事情で申請すれば5名まで認められることがありうる）。

表の一番上のビンズオン・チームから、外国人選手の国籍を見ていくと、まずビンズオンでは、3人の登録で、ナイジェリア、セネガル、ウガンダと全てアフリカ人が占めている。クアンニン・チームではウガンダとブラジル、タインホア・チームではブラジルとオランダである。順に見ていくと、ジンバブエ、ブラジル（ハイフォン・チーム）。マリ、ポルトガル（ロンアン・チーム）。カメルーン、ブラジル、ルーマニア（ゲアン・チーム）。ナイジェリア、ブラジル（カインホア・チーム）。元ナイジェリアでベトナムに帰化、トリニダード・トバゴ、トリニダード・トバゴ、アルゼンチン（ハノイ・チーム）。ナイジェリア（ドンタップ・チーム）。ナイジェリア、ナイジェリア、ナイジェリア（ザーライ・チーム）。コンゴ民主共和国、ウガンダ（クアンナム・チーム）。スペイン、セルビア（ダナン・チーム）。元ケニアでベトナムに

帰化、ナイジェリア、ブラジル、クロアチア（カントー・チーム）。カメルーン、ナイジェリア（ドンナイ・チーム）である。ベトナム国籍を今獲得している元外国人選手2名も入れて数えると、総勢35人である。その内訳は、アフリカ人選手20人、ブラジル人選手6人・アルゼンチン人選手1人、トリニダード・トバゴ選手2人、スペイン・ポルトガル・オランダ・クロアチア・セルビア・ルーマニアのヨーロッパ人選手各1人（計6人）と、圧倒的な数でアフリカ人選手が外国人枠に入り込んでいることがわかる。

旧年度ジャマイカ人選手2人だったハイフォン・チームでは、ジンバブエ人とブラジル人の選手とに変わった。ロンアン・チームでは、ポルトガル人選手のほかに、アフリカのマリ人の選手が活躍している。ゲアン・チームでは、旧年度、ガーナ人、オランダ人選手だったのが、3人の外国人選手へと増強され、ブラジル人、ルーマニア人に交じってやはりアフリカのカメルーン人選手がそのなかの1人を占めている。

カインホア・チームは、ブラジル人に加えてナイジェリア人選手を旧年度も今年度も使い続ける。ハノイ T and T は、ベトナムに既に帰化をふくめ4人の外国人選手を所属させているが、2人がトリニダード・トバゴで、1人がアルジェリア人、もう1人がベトナム国籍を獲得した元ナイジェリア人のサムソンである。上述したように、サムソンは2012年にベトナム国籍を取得し、ホアン・ブーというベトナム人名も取得しホアン・ブー・サムソンとなっている。サムソンは、2014年度のベトナム・サッカーリーグの得点王である。サムソンの2014年の得点23点は、過去1980年からの35年間の V League の得点王の歴史のなかで、20点を超えたのが6回しかないことから、大きな得点力として特筆される。ナショナル・チームは、ベトナム人選手を確実にインターナショナル・レベルに育てようという意志を持ち始めたところである。したがって、今まで頼ってきたところを改め、外国人枠も、国際化とは逆に、減じようとする動きを見せている。その結果、一般に3人以内（特別事情で5人まで）と定められた。このような方針から、今のところ帰化人を代表にあまり招聘していないが、2年連続のアフリカ系の得点王を代表チームに招聘するタイミングが到来する可能性はある。

4 近年のアフリカ人選手のベトナム・サッカー界への流入と活躍 —2006年～2015年

昨年度から今年度（2015年度）にかけてのチーム内の外国人選手の占める割合については、先ほど述べた。ここでは、ブラジルやアルゼンチン、東欧の選手に交じって、アフリカ人選手が多く認められる傾向にあることが判った。さらに、他外国人選手にかわってよりアフリカ人選手が重宝されその傾向が増していることも把握できた。そこで、外国人選手のなかで、

アフリカ人選手がベトナム・プロサッカー・リーグにどれだけ入り込み活躍してきたか、をこの10年の動きの中で検証してみよう（表3）。

どのようなアフリカの国々からベトナムにサッカー選手がやってきているかを見ると、最も多いのがナイジェリアである。先の表2による今年度の外国人選手数でもナイジェリアが一番多かった。表3を細かく考察してみよう。2006年では、ナイジェリアが23名、2位のウガンダが13名である。3位のガーナが8名と多い。あと、シエラレオネ4名、カメルーン、南ア、ケニア、ジンバブエが3名である。表3の Nam Phi というのは、ベトナム語の南アという意味である。Chau Phi がアフリカである。あとルワンダとモザンビークが2名、リベリア、ブルンジ、ザンビア、トーゴ、コンゴ、が1名である。2006年度に、ジャマイカからも選手が働きに来ている。表の中で1名カウントされている。

この表は、ベトナム・スポーツ省の国際局の課員が私の求めを受けてまとめてくれたものだが、ここにジャマイカとトリニダード・トバゴが入っているのは、興味深く注意すべき点である。国家公務員の課員であるから、もちろんジャマイカとトリニダード・トバゴが、カリブ海世界であることは知っている。ただ、ベトナム民衆世界がそうであるように、日本の民衆世界でもときにそうであるように、「黒人」世界として一般に一つのカテゴリーにくくことはまある。人々の意識はそうに認識している、ということである。歴史的に見れば、ヨーロッパ帝国世界の三角貿易によって、カリブ海世界がアフリカからの農業プランテーションを支える（働かせるための）労働力人口の強制的流入によって支えられたことに間違いはない。アメリカがヨーロッパ世界の「出島」で、今でも「欧米」などという言い方とくくり方が日本で普通の呼称として流布しているように、ベトナムで

アフリカとカリブ世界が一つの「くくり」「まとまり」として認識されても、一つのモノの見方として成り立つ。

2006年度は、ジャマイカもふくめて16ヶ国のアフリカ諸国からベトナム・プロサッカー・リーグにやってきた。2007年度は、ナイジェリアの22名を筆頭にガーナから8名、ウガンダ、シエラレオーネ6名と続いている。

10年を通して見ると、合計10名以上の数であれば、平均して1名はそのアフリカの国からベトナムのサッカーリーグに参加していることになる。10名以上の数があれば、コンスタントにその国からベトナム・サッカーリーグに参加していることになるから、アフリカベトナムの交流は極めて深いと言ってよい。ナイジェリアの205名の突出した人数を筆頭に、ガーナ

からこの10年、66名ものガーナ人選手がやって来ている。ウガンダからは、この10年間に59名のサッカー選手のベトナムへの渡来数である。カメルーンからは、38名の渡越サッカー選手が来ている。続いて、シエラレオーネからこの10年で累積16名、南アとケニアから13名である。一般的な人々の国境を越えた移動では、チェーン・マイグレーションと呼ばれるように、親族や同一村や仲間関係によって、その評判や成功例が共有され、同じ国や地域の類縁者がそのネットワークを通じて次から次へとやって来る。それが増強されていくことも多々ある。アフリカからのベトナムへのサッカー選手の流入は、同じような傾向があることを示している。

2010年にマリの選手がやって来ると、今日

DANH SÁCH CÁC CẦU THỦ THUỘC CHÂU PHI ĐƯỢC CẦU LẠC BỘ ĐĂNG KÝ THI ĐẤU TẠI CÁC GIẢI BÓNG ĐÁ CHUYÊN NGHIỆP VIỆT NAM TỪ NĂM 2006 - 2015

TT	Quốc tịch	Năm									
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
1	Nigeria	23	22	32	20	17	30	24	18	15	4
2	Uganda	13	6	3	4	5	9	7	8	3	1
3	Ghana	8	8	5	7	11	5	10	6	5	1
4	Cameroon	3	4	4	9	5	4	5	1	3	
5	Sierra Leone	4	6	2	1	1	1	1			
6	Nam Phi	3	1	2	2	1		1	2	1	
7	Kenya	3	1	1	1	2	2	2	1		
8	Zimbabwe	3	1	1				1	1		
9	Rwanda	2	2								
10	Mali					1	1	1	2	1	1
11	Liberia	1		2	1		1			1	
12	Burundi	1	1							1	
13	Zambia	1	1					1		1	
14	Mozambique	2									
15	Togo	1	2				3	2	2	1	
16	Congo	1	3	2	1	1	2	6	1	2	
17	Jamaica	1					2	1	1	3	1
18	Cote d'Ivoire		3	4				1			
19	Senegal				2		1	1	1	1	1
20	Tanzania					1	2	1	1	1	
21	Angola							1			
22	Ethiopia							1			
23	Namibia							3			
24	Trinidad & Tobago								2	2	2
25	Gambia							1			
26	Malawi							1	1	1	
	Tổng số	70	61	58	48	45	63	72	48	42	11

表3. ベトナム・プロサッカー・リーグ登録クラブ在籍アフリカ人選手名簿(2006—2015、ベトナム・スポーツ省提供)

の2015年度まで継続してその傾向が続く。コンゴ民主共和国（旧ザイール）からは、この10年間で総計19名のコンゴ人が来ているが、最初1－3人だったのが、2012年に6名に増えたりするのも、この情報ネットワークによるところがあると考えていい。仲間の成功を範に、自らも成功を夢見てアフリカからベトナムにやって来ているのである。あと2ヶ国を数えるアフリカ人選手が渡越してきている国は、トーゴである。順に、10年間の累計人数では、ジンバブエ7名、ルワンダ4名、マリ7名、リベリア6名、ブルンジ3名、ザンビア4名、モザンビーク2名、コートジボワール8名、セネガル7名、タンザニア6名、アンゴラ1名、エチオピア1名、ナミビア3名、ガンビア1名、マラウィ3名と続いている。アフリカからの延長拡大で一体化して捉えられているジャマイカが9名、トリニダード・トバゴが6名を数えている。

これらのアフリカ諸国（カリブ海2国を含む）の言語の使用状況で見てみよう。旧イギリス植民地は英語圏、旧フランスと旧ベルギーの植民地はフランス語圏、旧ポルトガル植民地はポルトガル語が共通語である。エチオピアは文献などではイタリア語が重要だが、口頭言語としては、まず英語使用が外国語として重要と考えていい。この観点から整理分析すると、英語使用が、ナイジェリア、ウガンダ、ガーナ、シエラレオネ、南ア、ケニア、ジンバブエ、リベリア、ザンビア、タンザニア、ナミビア、ガンビア、マラウィの13ヶ国に、カメルーン（英仏両言語使用）、を加えて14ヶ国である。さらに、カリブ海のジャマイカ、トリニダード・トバゴを足すと16ヶ国になる。フランス語をアフリカの母国で喋っているのは、旧ベルギー領のルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国の3国と、旧フランス領のマリ、トーゴ、コートジボワール、セネガルの4ヶ国であり、計7ヶ国である。ポルトガル語が共通語なのは、モザン

ビークとアンゴラである。そして外国語としてはイタリア語と英語の影響がみられるエチオピアからも、ベトナムにやって来ている。

ベトナム社会の言語使用を見れば、旧フランス植民地の時代は、エリートはフランスに留学した。今は歴史資料の文献という意味では、フランス語は重要であり、老世代にはフランス語を喋る庶民もいる²⁾。だが、口頭言語としてフランス語のコミュニケーションを聞く機会は少ない。教育現場でもそうである。歴史的に見て、社会主義という政治体制と協力関係から、ロシア語も意味を持つ。だが、ベトナム民衆から見れば、英語教育が外国語のなかで重点化されているというわけではなく、民衆の一部が喋れるかというところでもない。英語も日本語も、フランス語もロシア語も、ベトナム民衆から見れば、等距離の外国語という位置づけ感覚がある。なので、その時に、戦略的に、海外交流上重要な外国語を学んでいくという一般的な傾向がみられる。日本に来ているベトナム人研修生などは、英語をあまり解さず、日本語のほうがコミュニケーションしやすい場合が多い。こうした一般的傾向を基礎としたうえで、今日、外国語としてやや英語に比重がかかりつつある。サッカー世界においても、ベトナム内外のプレイヤーがグラウンドなどで喋る言葉は、英語である。あるいは外国人選手がベトナム語を学ぶ必要がある。

こうした状況から、英語圏アフリカの諸国からの選手到来が、比較的多いと捉えていいだろう。これはベトナム内部の事情である。アフリカからの状況で見れば、ナイジェリア人の世界各地への海外展開の流れは、かなりの勢いである、という事情がある。人口も圧倒的な数がある。とくに、ビアフラ内戦を経験して、ハウサ、ヨルバ、イボの3大民族のなかで、もともと商人ということもあり、独立を「阻止された」側のイボ人の海外展開は、ほかの2民族に比し

て、大きな勢いをもつ。日本でも約2000人と在日アフリカ人の1位はナイジェリア人であり、民族統計はないものの、その大半がイボ人である。私の調査で、ヨルバ人とハウサ人の民族結社は確認できていないが、イボ人は、人数が多く、イボ人居住地域を細分化してアナンブラ州人会、イモ州人会など、州ステート・レベルの在日民族結社が多く組織されている³⁾。日本に來ているアフリカ人の第2位は、2000人弱のガーナである。この在日アフリカ人の登録数の1位2位がナイジェリアとガーナであることも、この表での在ベトナム・サッカー選手数の1位2位ナイジェリア、ガーナと一致している。アフリカからの人々の海外展開の傾向ということもあるが、ナイジェリアとガーナがともにサッカーのアフリカ選手権で優勝を狙える強豪国であり、ワールドカップにも参加経験をもつ国であることも、ベトナムでのアフリカ人選手登録数の多さと関連している、と捉えられる。その意味では、カメルーンからも多くのサッカー選手がベトナムに來ている点は、注目すべきである。これも、アフリカ全体どこの国もサッカーが盛んだが、カメルーンがワールドカップに常連のように出場するサッカー強豪国であること、つまりその国におけるサッカーの興隆の度合がなせる業であると考えてよいだろう⁴⁾。

カメルーンの選手は、英仏語のバイリンガルである。自分の民族語に加え近隣の民族語や地域共通語ハウサ語などもできることが多いので、マルチリンガルである。フランス語圏に生まれ育った者も、英語が話せる。英語圏に生まれ育った者も、フランス語が話せる。ベトナムのサッカー界では、英語とベトナム語を使っている。このような傾向は、アフリカでは、公式の英仏語バイリンガル国のカメルーンに限ったことではない。生きていくためには、自分の民族語以外に近隣民族語や地域共通語リンガフランカ、そして公用語や国語になった旧植民地語

の英仏語ポルトガル語などを喋れるのが、多くの普通のアフリカ人の言語生活である。北カメルーンの村の路上で揚げパンを売っているおばさんたちが、自分の民族語、ハウサ語、フルベ語、英語フランス語など、字が書けなくとも喋れるのは、ごく普通の姿である。旧フランス植民地だったセネガル出身者が日本に來て、六本木で「普通」に英語でコミュニケーションしている。そのことは、ベトナム・プロサッカー・リーグに來ているセネガル人選手でも同じことである。Becamex Binh Duong のセネガル人選手は、ベトナム人選手とも同僚のウガンダ人選手とも、試合後の懇談をベトナム語まじりの英語で話していた。

むすび—「普通の」中下層アフリカ民衆の世界展開

表から判るように、広くアフリカ各国から選手が到來していることが確認できる。アフリカには、現在54ヶ国が認められているが、そのうち延べで言えば、26ヶ国からアフリカ人がベトナムにやっけて來ている。つまり、アフリカの特定国に限らず、アフリカ諸国から、アフリカ全体からベトナムへ、という分厚く熱い流入・交流を示すサッカー界の流れがあることが理解できる。

実態としてみれば、こうしたアフリカ人選手たちは、アフリカ各国の「普通の」中流または中下層の経済階層から出てきている。かれらは、決して限られた富裕層にはない。つまり、これは南側社会から北側社会への「出稼ぎ」なのである。しかも、シーズンの違いを活用して、自国のリーグにも参加し、3月から9月、9月から1月というように、1年間フルに出稼ぎをおこなうアフリカ人選手が多い。シーズンの可能な限り、まず必ずそうする。また、ヨーロッパの一部のリーグにチャンスを得た選手のように、高額の契約金を獲得しえるアフリカ人を除

いて、まず、働けるときは働くという、時間を精一杯使った働き方をしないと、アフリカに残す家族が生活できないことが多い。そうせざるを得ない。つまり、こうしたアフリカ人選手たちの、新たな、ベトナムにまで及ぶ地球規模の移動は、ほとんどが今の生活をつなぐ「やりくり」として、そして次なるビッグチャンスに繋がる手一杯の働き方を示すものである。アフリカとベトナムを結ぶ観光のパイプも太くなった。アフリカ人一般大衆が沢山ベトナムにやってくる。ベトナムからアフリカへの渡航も増えている。2015年、ナイロビからケニア航空 Kenyan Air が、ハノイ直行便を就航させた（写真8）。それだけ、アフリカははじめ地球の南側社会からの移動が、限られた上層ないし特別な動態なのではなく、普通の一般の中下層民衆の世界への動きとして、ベトナムにまで及ぶ出稼ぎ実態として、浮かび上がる。アフリカが目的語ではなく主語となった、「南」から「北」に向かうエネルギーに満ちた行動が、グローバルに地球の多くの場に行き交っていることが理解されるのである。



写真8. 2015年ハノイ直行便を就航させたケニア航空

〔謝辞〕 ベトナムとアフリカとのスポーツ交流の実態調査で、資料とその解説を提供してくれたベトナム・スポーツ省の Hoang Quoc Vinh 国際局長と、そのインタビュー調査を設定してくれたベトナム研究開発科学院の外務事務局 Do

Kien 副主任の厚い協力のおかげで、普段手にできない資料を開示いただきそれを取付できた。ここに深い謝意を表します。

【注】

- 1) 中国・広州のビューティ・サロンに来るアフリカ人女性客を見ても、ケニア、タンザニア、ギニア、マリ、トーゴ、カメルーンと多国籍が多い（和崎春日「アフリカへの中国人と中国へのアフリカ人」『神話・象徴・図像Ⅰ』篠田知和基編、楽浪書院、2011年、p.385参照）。この固定店舗と同じくらい多くの数のアフリカ諸国の人々と、ハノイの街角で偶然出会っている訳であり、ベトナムにも多くのアフリカ人が来訪している、ということが判る。
- 2) カメルーン、ベトナムという旧フランス植民地の博物館の展示の方法や様式には、フランスによる確固とした「北側」科学の影響が認められる。だが、近年は、南北関係から自らを主体化しようとする動きが、旧フランス植民地のカメルーン、ベトナムの博物館の意志として表出されている（和崎春日「建造物・陳列物の展示性をめぐる比較博物館学的調査ーベトナム・フランス・カメルーン」『中部大学民族資料博物館調査研究報告』平成23年度号、2012年、pp.1-13参照）。
- 3) 和崎春日「在日・在中アフリカ人の生活戦略とホスト社会の受容性ーグローバル化時代のネットワークと共同性」『研究論集』第36号、愛知大学短期大学部、2015年、pp.60-64 参照。
- 4) 和崎春日「アフリカ人の日常生活に見る世界戦略ー一日中在住カメルーン人の生活ネットワーク」『中部大学民族資料博物館調査研究報告』平成24年度・平成25年度合併号、2015年、p.10の写真参照。ここには、中国プロサッカー・リーグで活躍するカメルーン人選手たちが、シーズン・オフにハノイにベトナムでプレイするカメルーン人選手に会いにやってくる、というアジアでのカメルーン人サッカー選手の活躍が示されている。